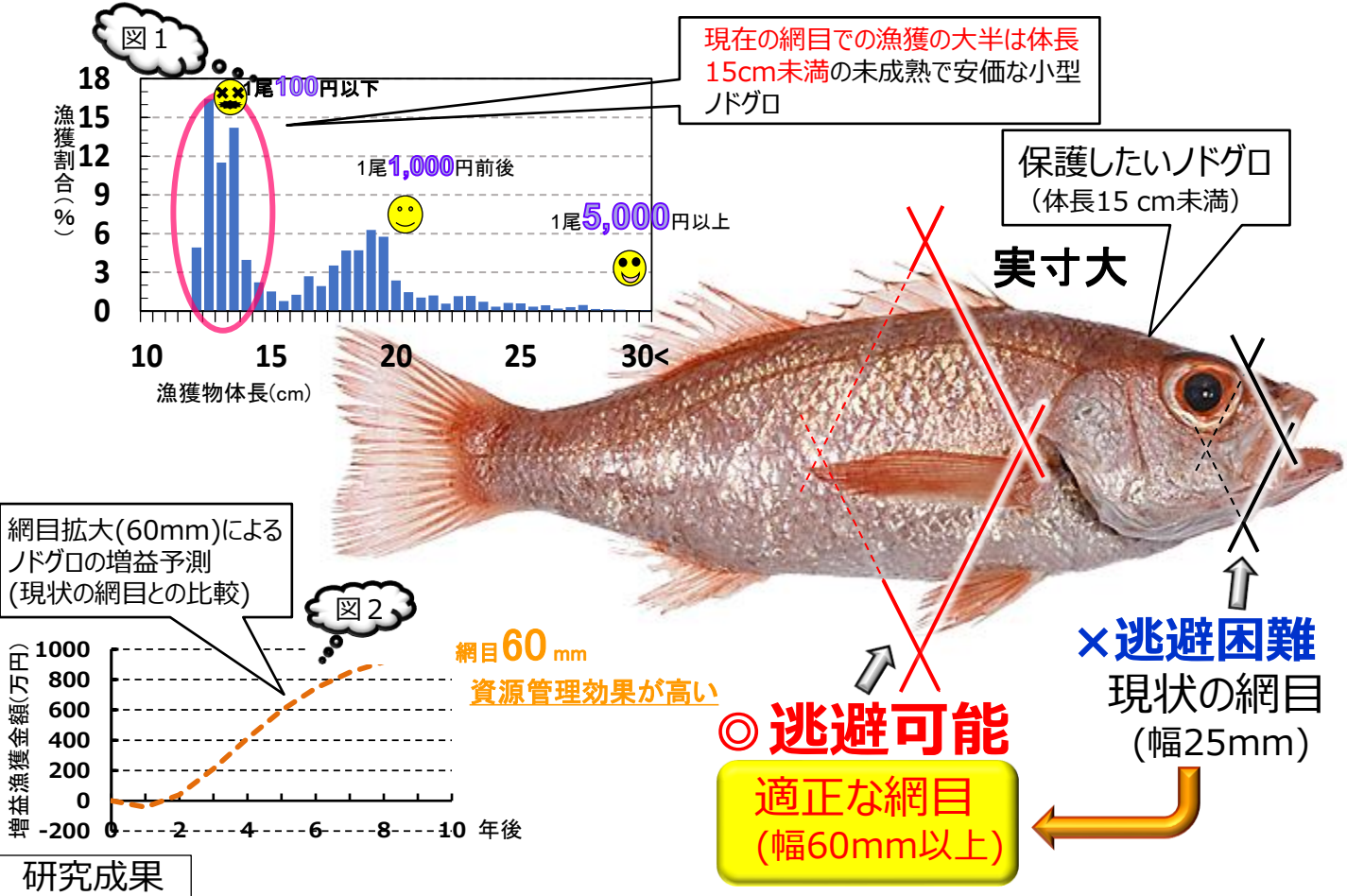


ノドグロの持続的な漁獲方法を確立

体長15cm未満の小さなノドグロを逃がす60mmの網目を用いることで、将来的に漁獲量と金額の増加につながり、資源管理効果が高いことがわかりました。

背景	<ul style="list-style-type: none"> 京都府底びき網漁業では高級魚のノドグロの漁獲量が近年（特に小型個体で）増加傾向 一方、未成熟魚の乱獲が心配されることから、適切な資源管理手法の早急な開発が求められている。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 漁獲実態や生態的知見に基づく保護サイズの決定 保護サイズのノドグロを網外に逃がすための適正な網目幅の検討 漁家に提案するための、網目を拡大した場合の資源管理効果（漁獲量と金額）の把握



研究成果

- 底びき網によるノドグロの漁獲量は、従来の網目幅25mmから60mm以上にして2歳以下の未成熟魚（体長15cm未満、図1の囲み枠）を保護すれば10年後には1.7倍以上に増加
- 漁獲金額は、網目幅60mm以上に拡大すれば10年後に推定1000万円以上の増益(図2)

<p>■ 現状(網目幅25mmの場合、直近5年平均)</p> <p>漁獲量：4.4トン</p> <p>漁獲金額：1,070万円(1経営体平均100万円)</p>	<p>■ 技術導入から10年後(網目幅60mmに拡大した場合)</p> <p>漁獲量：推定7.6トン</p> <p>漁獲金額：2,070万円(1経営体平均190万円)</p>
--	---

今後の展開

府内の底びき網漁業者および府沖合で操業許可を持つ福井県の漁業者に対してノドグロの漁期(主に9-10月)における網目拡大の必要性を普及啓発します。